



第115号

石川県生活協同組合連合会

〒920-0362 金沢市古府2-189
 コーポ・しかわ古府センター2F
 TEL076-259-5962 FAX076-259-5963
<http://ishikenren.jp>

発行日／2025年11月25日
 発行責任者／大谷 学



講師の平野路子氏

2025年度生協連 役職員研修会

「ジェンダー平等の現状と課題 ～地域社会で次世代に信頼される生協となるために～」

●日時 2025年10月28日(火)
 ●会場 石川県地場産業振興センター 本館 第4研修室

今年は2回目の国際協同組合年です。協同組合原則の第1原則「自発的で開かれた組合員制」の「性(ジェンダー)」による差別、社会的、人種的、政治的、宗教的な差別を行わない」に沿い、会員生協からの企画要望に応えたテーマで開催しました。

日本生活協同組合連合会 政策企画室長の平野路子氏を講師にお迎えし、ジェンダーに関する現状を踏まえ、地域社会で期待される生協の在り方を学びました。

ジェンダー、D&I(ダイバーシティ・アンド・インクルージョン)とは何か、なぜ今必要とされるのかを解説いただき、日本生協連が全国生協に学習を呼びかけている「DE&I」についてEとはEquity(公正性)「誰もが成功する機会を得られるようにすること」の大切さを教えていただきました。

また、次世代の「ジェンダーギャップが存在する場に若者は自分の未来をかけようと思わない」という現状から、地方での構造的課題を解決するためには、DE&I・ジェンダー平等が大きな鍵であることを学びました。

質疑応答では、会員生協の「Equityとは仲間外れにしない」という認識を共有するなど、講演後の交流が深まりました。



参加者アンケートの感想・意見

現状をデータで示していただき、とてもわかりやすく、課題の深さを理解できました。

DE&I(DE&I)の推進に向けた具体的な地域生協の取り組み事例や優先度など参考になりました。

今後職場で活用できる内容でした。

世代によつての思い込みが違つていて、自分で気づいていない事がたくさんあるんだなと思いました。もっともっとたくさんの方に知ってもらいたい内容でした。D&Iを話し合う場面も作っていききたいと思いました。

被爆80年企画

反核・平和おりづる市民のつどい実行員会主催

ピースデイ2025&平和のパネル展開催！

ピースデイ2025

例年、卯辰山玉兎が丘「平和の子ら像」前で開催しているピースデイを被爆80年企画として8月1日、石川県庁19階展望ロビー交流コーナーで開催しました。



オスロ報告をする西本さん(左)と大田さん

ピースデイでは、まず日本被団協ノーベル平和賞授賞式行動ツアーの参加報告がされました。昨年12月10日にノルウェーの首都オスロで授賞式が開催され、授賞式行動ツアーに石川県から当実行委員会メンバーの西本多美子さん、大田健志さんが参

加され、現地での様子を画像とともに紹介されました。

また「でえげっさあ」の平和のミニコンサートでは♪青い空を♪平和の子らに続いて、被爆者西本多美子さんを歌った♪たまちゃんの歌が披露されました。



でえげっさあのコンサートの様子



歌に聞き入る参加者



平和への願いを込めた折り鶴

平和のパネル展

来賓挨拶として今年も石川県知事馳浩氏より力強いメッセージをいただき、核兵器のない世界に向けた取り組みを次世代に引き継いでいくことの大切さを改めて感じたピースデイとなりました。



挨拶をする馳知事

ピースデイに引き続き、8月15日まで県庁19階展望ロビーで平和のパネル展を開催しました。展示物はオスロ報告の写真をメインに、恒例の「原爆と人間」パネル、広島基町高校生の描いた「原爆の絵」です。

会場はピースデイで献納された折り鶴の他、パネル展の期間中持つてこられた折り鶴でいっぱいとなりました。皆さんの平和への願いが込められています。

スペシャルイベント



紙芝居の前に手品を披露する安原昭二さん



報告される石川県青年団協議会の豊平慶彦さん

今年で2回目となりますが、パネル展開催中の8月6日(水)にスペシャルイベントを開催しました。安原昭二さんの紙芝居『復刻版 原爆の子さだ子の願い』の上演、石川県青年団協議会による戦争体験者の聞き取り報告などを実施しました。

金沢医療生活協同組合

次世代につなぐ平和への想いと祈り

生活協同組合コープいしかわ

また、8月11日には「未来につながる 平和の想い」ノーベル平和賞授賞式行動ツアー報告会を開催し、18名の参加者が西本多美子さん・大田健志さんのお話を通して



原爆ドームをバックに「平和の旅ヒロシマ」の参加者の皆さん

被爆・戦後80年の節目の2025年度、コープいしかわでは、8月5日～6日に「平和の旅ヒロシマ」を開催し5組9名の組合員とその家族が、碑めぐりや平和式典に参加しました。被爆の実相や被爆者の思いを知った参加者は、平和を考え継承することの大切さを学びました。

生活協同組合コープいしかわ
「平和の旅ヒロシマ」
「未来につながる 平和の想い」

「平和のために私にできること」などについて考える機会となりました。

コープいしかわは、これからも学びや体験の場づくりをすすめ、組合員と一緒に平和について考え次世代に継承する取り組みをすすめていきます。
(コープいしかわ 西口 晴美)

金沢医療生活協同組合
「金沢市天神町に
根を下ろした
金沢医療生活協同組合」



金沢医療生活協同組合はけんろく診療所を中心に医療や介護の砦となるよう、34年間活動を続けています。中でも平和であってこそ医療や介護ということで平和委員会が組合員活動として続けられてきました。2か月に一度の委員会・歌声喫茶

がコロナの時も途切れずに続いています。広島・長崎で開かれる「原水爆禁止世界大会」への代表派遣から組合員や地域の方々に呼びかけて続けてきた歌声喫茶は今年で20年。イラクなどの紛争地域取材するジャーナリストのDVD視聴。中村哲さんの「荒野に希望の灯をともし」の映画会、沖縄からジャーナリストを迎えての学習会など取り組んできました。

憲法9条をないがしろにし戦争する国へひた走る危うさの中で平和の大切さを地域の皆さんと学び広げる活動をこれからも続けていきます。

11月8日に20年続けてきた歌声喫茶の集大成として「折り鶴」の作者の梅原司平さんと「愛と平和のコンサート」を開きました。平和を願う歌と語りで、会場いっぱいの入場者に大きな感動を呼び大成功でした。

(金沢医療生活協)

理事長 近松美喜子



石川県勤労者共済生活協同組合

第70回通常総代会

2025年7月30日(水)

石川県女性センター

2025年7月30日(水)に、石川県女性センターにおいて、「石川県勤労者共済生活協同組合第70回通常総代会」および「こくみん共済coop中部統括本部 石川推進本部第8回組合員代表者会議」を開催し、2024年度事業報告および2025年度事業計画などすべての議案が承認・決定されました。

2025年度も引き続き組合員の拡大、出資増強をはかることや総合(慶弔)共済のほか、連合会の各種共済事業に関する普及宣伝をおこなうことが承認されました。



挨拶をする黒谷治夫理事長
(石川県勤労者共済生活協同組合)

(石川県)
勤労者
共済生協
専務理事
松岡 親司

石川県生活協同組合連合会 創立60周年特集企画 vol.2 「生協運動の前進」

1986年～2005年

●生協のあゆみ(1986年～2005年)

| | |
|-------|------------------------------------|
| 1987年 | 第1回「石川県生協大会」開催(15回大会まで毎年開催) |
| 1989年 | 機関紙「県連だより」第1号発行 |
| 1991年 | 金沢医療生活協同組合設立 |
| 1991年 | 県内6協同組合が参加し「石川県協同組合協議会」設立 |
| 1992年 | 金沢医療生協・石川共済生協が県連に加盟 |
| 1993年 | 石川県生協連が厚生労働大臣表彰を受賞 |
| 1995年 | 生活協同組合連合会コープ北陸事業連合設立 |
| 1995年 | 生協連創立30周年記念式典 |
| 1997年 | 金沢市と「災害時における生活必需物資の供給・確保に関する協定」を締結 |
| 1999年 | 生活協同組合連合会大学生生活協同組合北陸事業連合設立 |
| 1999年 | 生協法制定50周年記念シンポジウム開催 |
| 2000年 | 生活協同組合コープいしかわ(小松・石川・七尾合併)設立 |
| 2000年 | 生協連事務所移転(石川県勤労者福祉文化会館へ) |
| 2001年 | 臨時国会で食品衛生法改正・運用強化に関する請願が採択 |
| 2002年 | 石川県と「災害時における生活必需物資の供給に関する協定」を締結 |
| 2003年 | 石川工業高等専門学校生活協同組合設立 |
| 2003年 | 厚生労働大臣表彰 生協連橘会長理事・生活協同組合コープいしかわ受賞 |
| 2005年 | 第16回石川県生協大会(生協連創立40周年記念事業)開催 |
| 2005年 | 第1回「原爆と人間」パネル展を県庁19階展望ロビーで開催 |

●生協の連携強化

第1回生協大会の開催や金沢医療生協、石川県勤労者共済生協の県連加盟、生協連創立30周年記念式典、40周年記念事業の開催、また3つの地域生協が合併し、コープいしかわが設立されるなど生協間の連携強化が進み、生協運動が

前進しました。

この時期、現在生協連の会員であるコープ北陸事業連合、大学生協北陸事業連合、石川高専生協が設立されました。

また、県内6協同組合が参加し、石川県協同組合協議会も設立されました。

生協連創立60周年に寄せて

石川県生協連60周年おめでとうございます。生協連も還暦を迎えたんですね。私はそのうちの8年間お世話になりました。退任したのは東北の震災の年でした。当日は午後からエコハウスで会議があり向かっている時車がひどく揺れたのを今でもはっきり覚えていいます。地震と言えば昨年の能登半島地震は記憶に新しいことですが、県連にいた2007年3月にも輪島を中心に大きな地震がありました。当日は日曜日で町内作業後車に乗るとラジオが地震を伝えていました。慌てて県連に駆け



元専務理事 表 重雄氏

あの頃、あの時

け付けるとすでに関西地連からメールが入っていて対応し、日生協の総会で現状を訴え、義援金が数千万円集まり石川県に届けました。昨年の地震では日生協が義援金を集め数億円を届けたことを新聞等で知りました。この時ほど生協組合員の力ってすごいなあと感じました。

表 重雄



インフォメーション

石川県生協連 創立60周年記念講演会

【生活協同組合(県連)が果たしてきた役割と今後について】

- ◆日時：2026年2月28日(土) 10:00～12:00
- ◆会場：ホテル金沢 ダイアモンドB
- ◆講師：日本生協連 代表理事副会長 嶋田 裕之 氏



石川県生活協同組合連合会 創立60周年に寄せて part.1

金沢医療生活協同組合

金沢大学生生活協同組合

コープ北陸事業連合



金沢医療生活協同組合
専務理事 柴原 ひろみ 氏

石川県生活協同組合連合会に加盟している会員生協の交流企画として、2012年・2014年に会員生協訪問ツアーを開催しました。会員生協の事業内容と活動内容は様々です。私が印象に残っている企画は訪問ツアーに参加できたことです。直接事業の概要と活動について、説明を受けながら施設見学ができたことです。それぞれの事業内容を知ることができ、有意義な時間を過ごすことができました。事業内容は異なりますが、組合員の思いを形にしていけるとが共通する部分だと知ることができました。それぞれの事業所が消費者（組合員）に寄り添った活動を、これからも連携しながら取り組むことで役割が發揮できることを学びました。

（金沢医療生活協同組合

専務理事 柴原 ひろみ）



金沢大学生生活協同組合
専務理事 坂口 辰彦 氏

県連は私や金大生協にとって「命の恩人」的な存在です。金大生協は1999年頃経営が悪化し、経営再建が始まりました。当時専務の横山さんは金大生協の事情をよくご存じで、精神面を含め、様々なご支援をいただきました。その頃私は管理、組織面を担当しており、県の指導検査対応や組織運営について、理事の鯉野さんから懇切丁寧にご助言をいただきました。また、県の融資、金融機関のご紹介などもしていただきました。おかげ様で2008年には累積赤字は解消し経営も安定しました。2020年のコロナ禍で供給が大幅に減少した時も、専務の浅田さんから会費免除のご提案をいただき、ご対応いただきました。私にとって県連は危機の時に

金大生協を支えてくださったという思いが大きいです。

石川県内には様々な生活協同組合があり、その組合員のためにも会員生協を今後も支えていただけたら心強いです。

（金沢大学生生活協同組合

専務理事 坂口 辰彦）



コープ北陸事業連合
野村 倫代 氏

2007年3月25日に能登半島で最大震度6強の地震が発生しました。コープ北陸では役職員の他にお取引先に対しても募金呼びかけ、寄せられた募金を石川県生協連・コープいしかわと共に義援金として石川県（当時は谷本県知事）に贈呈しました。

それからわずか17年。2024年1月1日に最大震度7の令和6年能登半島地震が発生し、多

くの命が失われました。石川県生協連の中にコープ被災地支援センターが立ち上げられ、全国生協と連携した様々な被災者支援活動に勇気をもらい、生協職員の一人として被災者支援活動に関わっていく原動力となりました。1日でも早い復旧・復興を目指し、組織としても「能登半島地震復興応援企画」の継続など、これからも被災地の支援活動に取り組んでいきます。

（コープ北陸事業連合

野村 倫代）



県生協連活動日誌

- 8**
- 8月1~15日 被爆80年企画 ピースデイ
▶石川県庁19階展望ロビー交流コーナー
平和のパネル展▶石川県庁19階展望ロビー
 - 8月 5日 第1回三役会▶生協連事務所及びWeb会議
 - 8月 5日 労福協第3回理事会、懇親会▶金沢市文化ホール
 - 8月 6日 平和のパネル展スペシャルイベント
▶石川県庁19階展望ロビー交流コーナー
 - 8月 6日 令和7年度(第66回)石川県防災総合訓練第2回
打合せ会議▶石川県庁会議室
 - 8月 8日 60周年第4回実行委員会▶Web会議
 - 8月15日 パネル展片付け▶石川県庁19階展望ロビー
 - 8月22日 日生協関西地連非常用通信機器訓練
 - 8月25日 いしかわフードバンク・ネット第2回理事会
▶石川県社会福祉協議会
 - 8月25日 令和7年度 金沢市食の安全・安心委員会(欠席)
 - 8月29日 第4回反核・平和おこづる市民のつどい実行委員会
▶Web会議
- 9**
- 9月 1日 第4回協同組合間連携会議▶石川県農業会館
 - 9月 1日 令和7年度第1回石川県食品安全安心対策懇話会
▶(株)ヤマト醤油味噌
 - 9月2~3日 つながる力で能登を笑顔にアクション
▶ANAクラウンプラザホテル
 - 9月 4日 つながる力で能登を笑顔にフィールドワーク▶被災地
消費者支援ネットワークいしかわ第3回理事会
▶金沢市長土堀青少年交流センター
 - 9月 9日 第2回広報委員会▶Web会議
 - 9月10日 第3回理事会▶Web会議
 - 9月10日 労福協第4回理事会▶フレンドパーク石川
 - 9月10日 消費者支援ネットワークいしかわ第2回消費者部会
▶金沢市長土堀青少年交流センター
 - 9月12日 第3回企画運営委員会▶Web会議
 - 9月19~20日 2025年度県連活動交流会▶神奈川県:ナビオス横浜
 - 9月24日 第5回協同組合間連携会議▶石川県農業会館
 - 9月25日 関西地連第2回運営委員会▶Web会議
 - 9月25日 いしかわフードバンク・ネット第5回運営委員会(欠席)
 - 9月30日 第2回三役会▶Web会議
- 10**
- 10月 1日 2026年自治体要請 自治体担当者会議、連合石川
地方議員団との意見交換会▶フレンドパーク石川
 - 10月 8日 CSNI グッドチョイスセミナー
▶石川県消費生活支援センター
 - 10月 9日 第5回60周年記念事業実行委員会▶Web会議
 - 10月10日 第47回東海北陸生協行政合同会議▶三重県
 - 10月15日 CSNI グッドチョイスセミナー
▶石川県消費生活支援センター
 - 10月17日 第2回新たな「いしかわの食と農業・農村ビジョン」
検討委員会▶石川県庁会議室
 - 10月22日 石川県防災総合訓練第3回打合せ会議
▶石川県地場産業振興センター
 - 10月23日 消費者支援ネットワーク第4回理事会
▶金沢市長土堀青少年交流センター
 - 10月27日 消費者支援ネットワークいしかわ担い手事業
リーフレット編集会議▶石川県女性センター
 - 10月28日 2025年度役職員研修会▶石川県地場産業振興センター
 - 10月29日 第2回監事会▶古府センター
 - 10月30日 第6回協同組合間連携会議▶石川県農業会館
- 11**
- 11月1~2日 いしかわ環境フェア2025▶石川県産業展示館3号館
 - 11月 2日 第65回石川県防災総合訓練▶かほく市
 - 11月 4日 第4回理事会▶Web会議
 - 11月10日 国際協同組合年イベント
 - 11月11日 関西地連第3回非常用通信機器訓練
 - 11月12日 労福協第5回理事会▶フレンドパーク石川
 - 11月12日 滋賀県生協連視察
 - 11月14日 全岐阜県生協連設立50周年記念式典
▶ホテルグランヴェール岐山
 - 11月18日 第4回企画運営委員会▶Web会議
 - 11月24~25日 福岡県生協連研修対応
 - 11月27日 関西地連第3回運営委員会▶Web会議

私のおススメの一冊

『大人のための地学の教室』

ダイヤモンド社
鎌田 浩毅 著



本書は、主にプレート運動による地震や火山噴火のメカニズムを核やマントルといった地球の構造からわかりやすく解説されています。「地学とは何か」を一言で表すと「熱の放出」で、「地球は熱を放出しようとしている(冷めようとしている)」そうです。

東日本大震災を境に日本列島は地震と噴火が頻発する時代(大地変動時代)に入ったようで、南海トラフ巨大地震(東南海地震、東海地震、南海地震)は2035年をピークに前後5年の間(2030年代)に発生する可能性が高いとあります。

ちなみに、「2035年をピーク」とする根拠として、過去の南海トラフ地震の周期の他、高知県の漁師さんによる漁港の水深計測結果のことも紹介されています。南海トラフ巨大地震が起きたら富士山も二度目の揺れ(一度目の揺れは東日本大震災)に耐えられず噴火するだろうとも。

6800万人が被災し、220兆円の経済損失が発生すると言われる南海トラフ巨大地震で何が起きるのかだけでなく、地学とは何かを学びたい方の入門書としておすすめです。

コープ北陸事業連合 森田 満

編集後記

私事で恐縮だが、地域情報誌「大学のある街」を仲間と発行して「一人暮らしの節約術」のコラムを担当している。最近の物価高騰、特に食費の値上がりは原稿を特に書きにくくさせている。比較的安定していた「豚肉」「もやし」「卵」「納豆」を便利でおいしく他の食材と相性がいい『優等生食材』として推奨してきたが、もやしはともかく卵や納豆、豚肉もじわじわと、値上がりはどこまで続くのか見通しも立たない。

全国大学下宿生の平均食費は1ヶ月26,110円で1日900円にも届かない。仕送りのない下宿生は約1割いる。下宿生の節約工夫したい費目で「外食含む食費」比率は7割もあり、学生には「これ以上食費は削るな」が本音である。

物価高を止めない政府にも腹はたつが、進まない原稿書きにいつつく今日この頃である。

生協連だより広報委員 金大生協 横川 勝巳